

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和3年度研究開発実施報告書

「人と情報のエコシステム」

研究開発領域

「 ヘルスケアにおけるAIの利益をすべての人々にもたらすための市民と専門家の関与による持続可能なプラットフォームの設計 」

「Ensuring the Benefits of AI in Healthcare for All:
Designing a Sustainable Platform for Public and Professional
Stakeholder Engagement」

研究代表者氏名 山本 ベバリーアン
(大阪大学人間科学研究科 教授)

Principle Investigator: Beverley Anne Yamamoto

(Professor, Graduate School of Human Sciences Osaka
University)

目次

1. 研究開発プロジェクト名.....	2
2. 研究開発実施の具体的内容.....	2
2 - 1. 研究開発目標.....	2
2 - 2. 実施内容・結果.....	3
2 - 3. 会議等の活動.....	13
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況.....	15
4. 研究開発実施体制.....	15
5. 研究開発実施者.....	16
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など.....	17
6 - 1. シンポジウム等.....	17
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など.....	17
6 - 3. 論文発表.....	18
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）.....	18
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等.....	19
6 - 6. 知財出願.....	19

1. 研究開発プロジェクト名

「ヘルスケアにおけるAIの利益をすべての人々にもたらすための市民と専門家の関与による持続可能なプラットフォームの設計」

Ensuring the Benefits of AI in Healthcare for All: Designing a Sustainable Platform for Public and Professional Stakeholder Engagement

2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. 研究開発目標

本プロジェクト「ヘルスケアにおけるAIの利益をすべての人々にもたらすための市民と専門家の関与による持続可能なプラットフォームの設計」の呼称を「AIDE (エイド) プロジェクト」とします。

AIDEプロジェクト終了時の達成目標は、大阪大学およびオックスフォード大学の附属病院で導入を検討または開始している医療に関するAIの3～5の技術開発領域において、効果的なエンゲージメント・プラットフォームが機能した状態を維持することである。そのために、以下のことを達成目標とする。

- ・大阪大学で準備が先行している、医用画像診断の見落とし防止やリキッドバイオプシー等にAIを利用する「診断の精緻化」に関する技術開発領域と、音声認識によるカルテ自動入力等にAIを利用する「現場業務の負担軽減」に関する技術開発領域とについて、複数（3～5）の技術開発領域を選びプラットフォーム実装の対象とすることで、AIのタイプやフォーマット等の相違といった属性との関連性のもとで、ステークホルダー関与のメカニズムを得る。これを英国側と比較しながら、プラットフォームを共同設計する。
- ・本計画で実施する研究やワークショップの開催を通じて、ステークホルダーのなかでも特にこれまで意思決定に参加していなかった病院スタッフや、患者、市民が、具体的な医療におけるAIについての知識を持つ。
- ・本研究開発の文献レビューの結果や、ステークホルダーの特定や組織の方法、懸念への対処の仕方等をまとめて、AIの導入に取り組んでいる他の医療現場が実際に使える知識を含んだガイドランスを作成する。

実施内容2：本研究開発プロジェクトの英語版ウェブサイトを新たに作成し、日本語と英語版ウェブサイトに平易な言葉を用いて研究成果や関連情報を多くのステークホルダーに周知を行う。

実施した内容：

実施内容 1

日英研究者による研究打ち合わせをオンラインで定期的（月1～2回）に行い、本プロジェクトのWPについて、担当者を中心に、進捗報告や研究の作業に伴う細かな点の意識合わせを行った。

大阪大学・オックスフォード大学両側においてアドバイザリーボードミーティングを開催した。

実施内容2：

大阪大学側は本プロジェクトウェブサイトへの投稿を日本語・英語ともに定期的に行っており、最近では本プロジェクトを越えた活動についても投稿を行っている。

実施項目WP2：患者と市民による参加者パネル(PPIP)の役割の現実化

実施内容 1：年に約5回ワークショップを行い、研究の患者と市民の視点を質的研究の質問項目における分析に反映する。第1回目のPPIPワークショップは日英共同で行う。

実施した内容：

R3年度ではPPIPワークショップを3回行った。

時間の都合上、計画していたオックスフォード大学側と大阪大学側のPPIPによるミーティングは開催することができなかった。オックスフォード大学側のPPIPミーティングには毎回大阪大学側の代表者と若手研究者が参加し大阪大学側PPIPに関する質問に答えた。

実施項目WP3：文献スコーピングレビューとツイッター分析の結果まとめ、共有と発表

実施内容 1：日英の研究チームと共同でスコーピング文献レビューのデータ分析を行い人工知能（AI）の医療における導入に対するステークホルダー関与に関する事例、課題、具体的なrecommendations, output, outcomeなどを分析する。分析した結果をアドバイザリーボードとPPIPと共有し、得られたフィードバックを研究データとして分析する。その結果を学術論文にまとめるとともに、AIDEプロジェクトのウェブサイトなどを通じてステークホルダーに普及する活動も行う。

実施内容 2：日英の研究チームと共同でツイッター・ソーシャルメディア分析の結果をまとめ、AIを医療に導入するsentiment(固定的、不貞的、中立的)分析、課題

分析などを行う。結果を学術論文にまとめる上に、AIDEプロジェクトのウェブサイトを通じてステークホルダーに普及する活動も行う。

実施内容3：秋に、研究者6名にて英国側を訪れ、集中的にデータ分析・執筆活動を行う。

実施した内容：

実施内容1：

文献スコーピングレビューのデータ収集・分析は完了した。英語、日本語のメディカルデータベースの調査を行い灰色文献はグーグルで検索した。調査は、AI、ヘルスケア、ステークホルダー関与に関して入念に考案された調査方法を用いて実行した。オックスフォード大学の専門司書に相談し、データベースおよび灰色文献調査プロトコルを確立した。調査とデータ抽出は大阪大学チームによって行われた。

実施内容2：

ツイッター分析の質的・量的分析を実施し、論文執筆を開始した。

実施内容3：

3月には大阪大学側研究代表の山本ベバリーアンが渡英し、オックスフォード大学側研究者Nisha ShahとSarah Coyと共に1週間データ分析をさらに洗練されたものにすべく取り組んだ。

実施項目WP4：医療へのAI導入におけるステークホルダーの識別

大阪大学の医学部附属病院のAIホスピタルの事業と連携取りながらAI導入に関わる各ステークホルダーの識別を行う。

実施内容1：AIホスピタル事業事務局および研究代表者との打ち合わせを行い、本プロジェクトに参加する計画を3～5つ選定する。それらの研究開発計画から、関与するすべての患者・スタッフ・看護師・医師等のアクターを整理し、WP3の知見を取り入れながらステークホルダーの識別を行う。

実施内容2：その際に、WP7で収集するエンゲージメント・ストラテジーのいくつかを実際に当てはめてみるといった検討をしながら、作業を行う。

実施内容3：大阪大学医学部附属病院におけるステークホルダーとすでに導入済みあるは導入予定のAI技術の識別を行う。

実施した内容：

実施内容1：2021年5月から6月にかけて、AIホスピタルである大阪大学医学部附属病院とオックスフォード大学トラストホスピタルにおいて医療のために開発されているAI技術のマッピングを行い、2つの場所におけるAI医療の展望についての予備調査報告書を作成した。

実施内容2：これらの技術の開発に関与するステークホルダーをより深く理解するため、2021年7月13日に日英AIDEプロジェクト研究者、大阪大学医学部附属病院並びにオックスフォード大学トラストホスピタルの医師が参加するラウンドテーブルミーティングを開催した。

実施内容3：大阪大学医学部附属病院におけるステークホルダーとすでに導入済みあるいは導入予定のAI技術の識別を行った。

実施項目WP5：フォーカスグループ研究

研究活動からのデータを踏まえて、特にWP2のPPIP打ち合わせとWP3のスコoping文献レビュー、ツイッター・ソーシャルメディア分析から医療従事者、市民・患者、AI開発者とのそれぞれのステークホルダーに対するフォーカスグループの内容を決定し、フォーカスグループ研究をおこなう。

実施内容1：WP2、WP3、WP4の成果を踏まえて、フォーカスグループの質問項目を確定する。

実施内容2：WP4で識別されたステークホルダーと、病院外から広く募った市民参加者60人程度(日本30人、英国30人)を、7~8人ずつ8グループ(日本4つ、英国4つ)に分け、半構造化面接法等によるフォーカスグループ研究を開始する。

実施内容3：フォーカスグループデータをPPIPとアドバイザリーボードと共有し、データ分析を行う。

実施した内容：

実施内容1：

日英両国におけるWP2,WP3,WP4の結果と医療におけるAIに関する調査に基づき、異なるAI技術(画像診断・スクリーニング、自然言語処理、ウェアラブル機器を用いたモニタリング)を用いた4つのシナリオとインタビュー用質問項目を共同で作成した。シナリオとイラスト作成における重要なポイントでは、日英両国のPPIPとアドバイザリーボードに助言を求めた。フィードバックに沿って変更を行うことで、確かな共同制作を行うことができた。

実施内容2：

シナリオ、質問、イラストの作成には想像以上に時間を要した。また、サンプリングとリクルート戦略にも予定より時間を要した。結果として、日英両国において、R3年度にリクルートを3月23日に開始するようになったので、主にR4年度リクルート・インタビューを行うこととなった。

実施内容3：

データが収集できていないため、分析は遅れている。

実施項目WP7：エンゲージメントプラットフォーム開発

実施内容：エンゲージメントプラットフォームの開発にあたって、まず、文献やウェブサイト等を広く調査し、国内外で用いられている患者・市民のエンゲージメント・ストラテジーを収集する。さらにAIとの関連において詳しく検討することによって、AIをヘルスケアに導入する場合のランドスケープがどのようになっているかを把握していく。

実施した内容：

ステークホルダーエンゲージメントプラットフォームの文献調査とエンゲージメントプラットフォーム関与によるヘルス関連プラットフォーム調査を行った。

(3) 成果

今年度の到達点

R2の研究活動を踏まえながら質的調査を行う。フォーカスグループインタビューにより、医療へのAI導入におけるステークホルダーからのデータを収集しそれぞれの特長と視点の分析を行う。アウトプットについては、文献スコーピングレビューとツイッター分析の論文を作成する予定である。すべての研究活動についてPPIPとアドバイザーボードとの役割を分析しながらco-productionのあり方と効果も評価する。以上がR3年度における大きな到達点である。

実施項目WP1：両国間調整と発信・普及戦略

WP1は全期間のマネジメントのために実施し、研究プロジェクトの管理および両国間での各WP間の調整を行って、プロジェクトの目標を確実に達成する。また、効果的発信や普及実現のための戦略を練り、論文発表といった伝統的学術アプローチに加え、既存の国際的ネットワークや、プロジェクト研究者とステークホルダーのパートナーシップ、ソーシャルメディア、各国のプロジェクトウェブサイトなどの様々なフォーマットにおける最適な実施を行う。

実施内容1：日英両国の研究打ち合わせ、アドバイザーボードの会議開催定期的に行いながら共同研究の体制とプロジェクトの管理を行う。

実施内容2：本研究開発プロジェクトの英語版ウェブサイトを新たに作成し、日本語と英語版ウェブサイトに平易な言葉を用いて研究成果や関連情報を多くのステークホルダーに周知を行う。

成果：

実施内容1

日英研究者による研究打ち合わせをオンラインで定期的（月1～2回）に行い、本プロジェクトのWPについて、担当者を中心に、進捗報告や研究の作業に伴う細かな点の意識合わせを行った。コアメンバーミーティングを毎月、研究代表・副代表ミーティングをほぼ隔月で、そしてWPミーティングを毎週開催した。3月には大阪大学側研究代表者が渡英し、オックスフォード大学側と1週間共同研究を行った。

大阪大学・オックスフォード大学両側においてアドバイザーボードミーティングを開催した。オックスフォード大学側アドバイザーボードミーティングには大阪大学側研究代表の山本ベバリーが参加し、日本側の視点、日本側へのフィードバックそしてオックスフォード大学側で出たアドバイザーボードに関する問題点等を共有することができた。大阪大学側アドバイザーボードミーティングは2021年11月4日に開催し、WP2,WP3,WP5の進捗状況を報告し貴重なフィードバックを得ることができた。WP5に関しては、初期段階でのシナリオ原稿に対しフィードバックをいただき、現在のシナリオに大きな影響をもたらした。オックスフォード大学側アドバイザーボードミーティングは2022年2月1日に開催され、WP4,今後の展望そしてラウンドテーブルミーティングについて議論を行った。また、WP5のシナリオ並びにイラストに対しさらなるフィードバックを得ることができた。

実施内容2：

大阪大学側は本プロジェクトウェブサイトへの投稿を日本語・英語ともに20回に行っており、最近では本プロジェクトを越えた活動についても投稿を行っている。

実施項目WP2：患者と市民による参加者パネル(PPIP)の役割の現実化

実施内容1：年に約5回ワークショップを行い、研究の患者と市民の視点を質的研究の質問項目における分析に反映する。第1回目のPPIPワークショップは日英共同で行う。

成果：

R3年度ではPPIPワークショップを3回行った。最初の2回では、付箋アプリ'Apisnote'を使用して、「AIが医療のために開発され用いられることに対する期待はどのようなものか」「反対に懸念はどのようなものか」という2つの問いについて個人であるいはグループワークを通し考え・議論を行ってもらった。1回目のセッションでは、期待が51個(47%)、懸念が54個(53%)という結果が得られた。2回目のセッションでは、それぞれのグループに期待と懸念を分類してもらいそれらにタイトルを付けてもらった。そしてなぜそのように分類しタイトルをつけたのかについて議論を行った。Apisnoteとオーディオデータの結果から、12の主要テーマを抽出することが出来た。これらのテーマはWP5のフォーカスグループに活かされている。さらに、2022年5月15日～19日に開催される24th *World Conference of the International Union for Health Promotion and Education* にこれらのデータに関する論文を提出したところ、短編ビデオ音声付のポスタープレゼンテーションとしてアクセプトされた。3回目のPPIPミーティングでは、WP5フォーカスグループインタビューで使用するために作成した3つのシナリオを紹介した。2つはオックスフォード大学側で、一つは大阪大学側で準備した。PPIPメンバーにはシナリオの明快さと懸念事項について考えてもらい、フォーカスグループの質問もPPIPメンバーに試した。大阪大学・オックスフォード大学のPPIPからのフィードバックに基づき、シナリオを修正し質問を変更した。さらに、PPIP,アドバイザーボードそして阪大病院チームのフィードバックから、大阪大学側でもうひとつ新たにシナリオを作成した。

オックスフォード大学側のPPIPミーティングには毎回大阪大学側研究者が参加し大阪大学側PPIPに関する質問に答えた。

実施項目WP3：文献スコーピングレビューとツイッター分析の結果まとめ、共有と発表

実施内容1：日英の研究チームと共同でスコーピング文献レビューのデータ分析を行い、人工知能（AI）の医療における導入に対するステークホルダー関与に関する事例、課題、具体的なrecommendations, output, outcomeなどを分析する。分析した結果をアドバイザーボードとPPIPと共有し、得られたフィードバックを研究データとして分析する。その結果を学術論文にまとめるとともに、AIDEプロジェクトのウェブサイトなどを通じてステークホルダーに普及する活動も行う。

実施内容2：日英の研究チームと共同でツイッター・ソーシャルメディア分析の結果をまとめ、AIを医療に導入するsentiment(固定的、不貞的、中立的)分析、課題分析などを行う。結果を学術論文にまとめる上に、AIDEプロジェクトのウェブサイトなどを通じてステークホルダーに普及する活動も行う。

実施内容3：秋に、研究者6名にて英国側を訪れ、集中的にデータ分析・執筆活動を行う。

成果：

実施内容1：

文献スコーピングレビューのデータ収集・分析は完了した。英語、日本語のメディカルデータベースの調査を行い灰色文献はグーグルで検索した。調査は、AI、ヘルスケア、ステークホルダー関与に関して入念に考案された調査方法を用いて実行した。オックスフォード大学の専門司書に相談し、データベースおよび灰色文献調査プロトコルを確立した。調査とデータ抽出は大阪大学チームによって行われ、オックスフォード大学側により2回目の包含・除外されたタイトルと要約のレビューが行われた。最初の段階の分析は主に大阪大学側により行われたが、常にオックスフォード大学側に相談し協力を得ながら行った。3月に大阪大学側研究代表者が渡英しオックスフォード大学側チームと共同研究をした際には、文献調査データ分析の精緻化に集中的に取り組み、「関与度」の尺度を作成した。この尺度は論文において活用されるだけでなく、ステークホルダーエンゲージメント・プラットフォームにおいても重要なものになると日英両国ともに考えている。

実施内容2：

ツイッター分析の質的・量的分析を実施し、論文執筆を開始した。

第1回目で収集されたデータの量的分析に加え、ハンド・コーディングを用いて、以下の3種類の質的分析を行った。

①感情分析：収集されたツイッターデータにて、AIに対して示されている感情を把握するために、ポジティブ・ネガティブ・ニュートラルに分類した。その結果、日英両言語で、AIに対して、ネガティブな感情を示すツイートが少ないことが明らかになった。

②ジャンル分析：ツイートの種類を把握するために、宣伝・コメント・ニュース・エンゲージメントの4カテゴリーに分類した。その結果、日英両言語において、コメントのツイートが主であることが明らかになった。

③内容分析：ツイートの論点を把握するために、オープン・コーディングを行った。その結果、7つのテーマが特定された。

これら、第1回目の分析に加え、2020年8月から2021年8月までの1年分のデータ収集も大阪で完了し、オックスフォードで分析が開始された。

実施内容 3：

3月には大阪大学側研究代表の山本ベバリーアンが渡英し、オックスフォード大学側研究者Nisha ShahとSarah Coyと共に1週間データ分析をさらに洗練されたものにするべく取り組んだ。現在は論文発表に向け、山本ベバリーとNisha Shahが協力し執筆している。British Sociology Association Med Soc conferenceにこのデータに関するアブストラクトを提出した。

実施項目WP4：医療へのAI導入におけるステークホルダーの識別

大阪大学の医学部附属病院のAIホスピタルの事業と連携取りながらAI導入に関わる各ステークホルダーの識別を行う。

実施内容1：AIホスピタル事業事務局および研究代表者との打ち合わせを行い、本プロジェクトに参加する計画を3～5つ選定する。それらの研究開発計画から、関与するすべての患者・スタッフ・看護師・医師等のアクターを整理し、WP3の知見を取り入れながらステークホルダーの識別を行う。

実施内容2：その際に、WP7で収集するエンゲージメント・ストラテジーのいくつかを実際に当てはめてみるといった検討をしながら、作業を行う。

実施内容3：大阪大学医学部附属病院におけるステークホルダーとすでに導入済みあるいは導入予定のAI技術の識別を行う。

成果：

2021年5月から6月にかけて、AIホスピタルである大阪大学医学部附属病院とオックスフォード大学トラストホスピタル2つの場所におけるAI医療の展望についての予備調査報告書を作成した。

これらの技術の開発に関与するステークホルダーをより深く理解するため、2021年7月13日に日英AIDEプロジェクト研究者、大阪大学医学部附属病院並びにオックスフォード大学トラストホスピタルの医師が参加するラウンドテーブルミーティングを開催した。

ミーティング議事録が作成し、ラウンドテーブルで行われた議論の要約をランドスケイピングレポートに追加した。このランドスケイピングにより、2つの大学病院の医療におけるAIの開発とどのようなキーステークホルダーが関与するのかということを含めた実践的、倫理的、技術的な幅広い複雑な問題をより深く理解することができた。

実施項目WP5：フォーカスグループ研究

研究活動からのデータを踏まえて、特にWP2のPPIP打ち合わせとWP3のスコーピング文献レビュー、ツイッター・ソーシャルメディア分析から医療従事者、市民・患者、AI開発者とのそれぞれのステークホルダーに対するフォーカスグループの内容を決定し、フォーカスグループ研究をおこなう。

実施内容1：WP2、WP3、WP4の成果を踏まえて、フォーカスグループの質問項目を確定する。

実施内容2：WP4で識別されたステークホルダーと、病院外から広く募った市民参加者60人程度(日本30人、英国30人)を、7~8人ずつ8グループ(日本4つ、英国4つ)に分け、半構造化面接法等によるフォーカスグループ研究を開始する。

実施内容3：フォーカスグループデータをPPIPとアドバイザリーボードと共有し、データ分析を行う。

成果：

実施内容1：

日英両国におけるWP2,WP3,WP4の結果と医療におけるAIに関する調査に基づき、異なるAI技術(画像診断・スクリーニング、自然言語処理、ウェアラブル機器を用いたモニタリング)を用いた4つのシナリオとインタビュー用質問項目を共同で作成した。大阪大学側はシナリオで使用するイラスト作成も担当した。

実施内容2：

シナリオ、質問、イラストの作成には想像以上に時間を要した。また、サンプリングとリクルート戦略にも予定より時間を要した。結果として、日本側は、R3年度に3月23日にリクルートを開始したので、R4年度にリクルートの継続とインタビューを行うこととなった。英国側は、WP5のためのR3の間に倫理審査を出したが、結果が待っている状態です。そのため、リクルート活動まだ始まっていない。

実施内容3：

データが収集できていないため、分析は遅れている。

実施項目WP7：エンゲージメントプラットフォーム開発

実施内容：エンゲージメントプラットフォームの開発にあたって、まず、文献やウェブサイト等を広く調査し、国内外で用いられている患者・市民のエンゲージメント・ストラテジーを収集する。さらにAIとの関連において詳しく検討することによって、AIをヘルスケアに導入する場合のランドスケープがどのようになっているかを把握していく。

成果：

ステークホルダーエンゲージメントプラットフォームの文献調査とエンゲージメントプ

プラットフォーム関与によるヘルス関連プラットフォーム調査を行った。こちらは内部報告書として作成した。

さらに、プラットフォーム開発の一環として、ウェブサイトへの定期的な投稿（WP1）、PIIP、アドバイザリーボード、AIホスピタルチームとの協議（WP1,WP2,WP4）を行った。シナリオやイラスト（WP5）、関与度の尺度（WP3.1）といった令和3年度に得られた成果は今後のプラットフォーム開発に向け重要なものとなる。

（4）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

R3年度は皆と協力し多くの成果を出すことができた。まずWP3,WP4のデータ収集・分析を完了し、二つの論文の初稿と医療AIランドスケープ内部報告書を作成した。PIIPと生産的に協力し共同制作を行っただけでなくワークショップを通じてAIに関する期待と懸念について知見を得ることができた。大阪大学側が運営するAIDEプロジェクト日英ウェブサイトを通じフォーカスグループ研究、ツイッター研究、あるいは会議発表などの情報の周知にも取り組んだ。新型コロナウイルスの影響が続く中においても多くの成果を出すことが出来た。

こうした状況下で最大限の努力で取り組んできたが、プロジェクト成果目標達成するためには約1年の遅れが生じている。今頃には文献調査とツイッター研究に関する論文を発表しているはずであったが、まだ原稿の修正段階である。フォーカスグループのデータを収集し終えているはずであったが、予想以上にシナリオ、イラスト、質問項目作成といった準備に時間を要してしまった。オックスフォード大学側はこれらの作成が完了しないと倫理プロトコルを提出できない状況であった。大阪大学側はリクルート活動を進めることができたが、オックスフォード大学側はR3年度に行うことができなかった。大阪大学側はオックスフォード大学側よりも数か月早くフォーカスグループインタビューを完了する予定であるがすべてのデータが収集できるまで両国の比較分析を行うことができない。このため、各学術的成果とWP6の質問項目作成に遅れが生じている。新型コロナウイルスの影響で1年間の遅れが生じており、遅れを取り戻すことが出来ていない状況である。

オックスフォード大学の共同研究者とのミーティングを定期的開催する努力はしたが、8～9時間の時差がある中でのオンラインミーティングでできることというのは非常に限られていた。特に英語でオンラインミーティングに参加する日本側研究者にとってはより厳しい状況である。こうした状況の中でのデータ分析は予定以上に厳しいものとなった。

この問題の解決方法として、オックスフォード大学側は本プロジェクトの1年延長を申請した。大阪大学側の申請は3か月であることから、当初は、オックスフォード大学側がない状態でもWP6をスタートしR4年度でプロジェクトを完了させるようにと決定した。しかし研究代表者として、今一度この解決方法を考えなおしているところである。本プロジェクトの特色は両国のコラボレーションであり、理想としてはさらに9か月の延長をする必要があると考える。

2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2021.4.1	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2021.4.21	第3回AIDEプロジェクトPPIPミーティング	Zoom	Apisnoteを使用したディスカッション
22021.5.12	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2021.5.25	第1回AIホスピタル事業推進会議/AI医療センターコアメンバー会議	Zoom	
2021.6.1	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2021.6.25	第1回AI医療センター運営委員会	Zoom	
2021.7.6	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2021.7.13	AI in Oxford and Osaka hospitals Roundtable	Zoom	日英AIDEプロジェクト・オックスフォード大学病院・大阪大学病院研究者によるラウンドテーブルミーティング
2021.7.27	WP5 meeting with Oxford	Zoom	大阪大学側コアメンバーとオックスフォード大学側とのWP5に関するミーティング
2021.8.3	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2021.8.18	第4回AIDEプロジェクトPPIPミーティング	Zoom	東京大学井上悠輔先生を招いての講演および質疑応答
2021.8.24	第2回AIホスピタル事業推進会議/AI医療センターコアメンバー会議	Zoom	
2021.8.30	W5 meeting	Zoom	WP5に関するミーティング
2021.8.31	AIDE project team meeting		日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2021.8.31	AIDE project principal and co-	Zoom	日英の代表者と副代表者のリーダーミーティング

	investigators' meeting		
2021.9.1	第7回AIDEプロジェクト阪大研究者ミーティング	Zoom	日本側の研究者のミーティング
2021.9.14	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2021.9.29	W5 meeting	Zoom	WP5に関するミーティング
2021.10.5	W5 meeting	Zoom	WP5に関するミーティング
2021.10.8	第5回AIDEプロジェクトPPIPミーティング	Zoom	WP5に向けたディスカッション
2021.10.19	W5 meeting	Zoom	WP5に関するミーティング
2021.10.26	第3回AIホスピタル事業推進会議/AI医療センターコアメンバー会議	Zoom	
2021.11.2	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2021.11.4	AIDEプロジェクトアドバイザーボードミーティング	Zoom	進捗状況報告・フィードバック
2021.11.8	AIDE project principal and co-investigators' meeting	Zoom	日英の代表者と副代表者のリーダーミーティング
2021.11.17	AIDE project principal and co-investigators' meeting	Zoom	日英の代表者と副代表者のリーダーミーティング
2021.11.18	W5 meeting	Zoom	WP5に関するミーティング
2021.12.7	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2021.12.17	第2回AI医療センター運営委員会	Zoom	
2022.1.11	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2022.1.24	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議

2022.2.1	Oxford Advisory Board meeting	Zoom	オックスフォード大学側アドバイザリーボードミーティング
2022.2.3	W5 meeting	Zoom	WP5に関するミーティング
2022.2.9	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2022.2.14	第8回AIDEプロジェクト阪大研究者ミーティング	Zoom	日本側の研究者のミーティング
2022.2.16	AIDE project principal and co-investigators' meeting	Zoom	日英の代表者と副代表者のリーダーミーティング
2022.2.22	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2022.3.1	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議
2022.3.31	第9回AIDEプロジェクト阪大研究者ミーティング	Zoom	日本側の研究者のミーティング
2022.3.31	AIDE project team meeting	Zoom	日英の研究プロジェクトのコアメンバーの定例会議

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

4. 研究開発実施体制

研究統括・実施グループ（山本ベバリーアングループ）（単一グループで実施）

大阪大学大学院 人間科学研究科

大阪大学大学院 医学系研究科

大阪大学附属病院 未来医療開発部 臨床研究センター

大阪大学社会技術共創研究センター

大阪大学大学院 法学研究科

大阪大学 データビリティフロンティア機構

5. 研究開発実施者

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
山本 ベバリーアン	ヤマモト ベバリーアン	大阪大学	大学院人間科学研究科	教授
加藤 和人	カトウ カズト	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
木村 正	キムラ タダシ	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
西田 幸二	ニシダ コウジ	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
松村 泰志	マツムラ ヤスシ	国立病院 機構大阪 医療セン ター	国立病院機構大阪医療 センター	院長
武田 理宏	タケダ トモヒロ	大阪大学	大学院医学系研究科	准教授
山本 洋一	ヤマモト ヨウイチ	大阪大学	附属病院 未来医療開 発部 臨床研究センタ ー	教授
福田 雅樹	フクダ マサキ	大阪大学	大学院法学研究科	教授
山本 奈津子	ヤマモト ナツコ	大阪大学	データビリティフロン ティア機構/大阪大学大 学院 医学系研究科	特任講師
古結 敦士	コゲツ アツシ	大阪大学	大学院医学系研究科	助教
相澤 弥生	アイザワ ヤヨイ	大阪大学	大学院医学系研究科	助教
Amelia Katirai	アメリア カテライ	大阪大学	大学院人間科学研究科	博士課程 学生
Kang Seongeun	カン ソンウン	大阪大学	大学院医学系究科	博士課程 学生
黒田 真稚恵	クロダ マチエ	大阪大学	大学院医学英研究科	博士課程 学生

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・日本語ウェブサイト：AIDE project, <https://aide.osaka.jp>, 2020年9月公開
- ・英語ウェブサイト：AIDE project, <https://en.aide.osaka.jp>, 2020年3月公開
- ・Facebook: AIDE Project-Japan, <https://www.facebook.com/aide.osaka.jp>, 2020年9月立ち上げ
- ・Twitter: AIDE Project Japan @AideProjectJP, <https://twitter.com/AideProjectJp>

(3) 学会（6-4. 参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・Osaka University Anniversary Lecture Series 8
UNESCO Chair in Global Health and Education: Lecture #6
AI Healthcare and Stakeholder Involvement
230students joined real time or on-demand
Prof. Beverley Anne Yamamoto
Amelia Katirai, specially appointed researcher and PhD student
2021年6月10日 Zoom
- ・Osaka University
UNESCO Chair in Global Health and Education MOOC series Part 1
Social Design for Health
Module on Healthcare AI and stakeholder involvement
Prof. Beverley Anne Yamamoto
Amelia Katirai, specially appointed researcher
- ・トラス研究の潮流～人文・社会科学から人工知能、医療まで～
「医療におけるトラス（2）」2021年8月27日、Zoom
<https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2021-WR-05.html>
「俯瞰セミナー&ワークショップ報告書：
トラス研究の潮流 ～人文・社会科学から人工知能、医療まで～」
- ・日本生命倫理学会第33回年次大会 公募ワークショップ09(日-C-4)

“これからの患者市民参画を考える—2つの着眼点「ベネフィット」
「患者市民の位置付けと役割」を拠り所にして”

オーガナイザー：加藤和人，古結敦士

指定発言 山本 ベバリー 2021年11月28日 オンライン開催

<https://ja-bioethics.jp/conference/top33/>

- Law and Technologies Seminar Series University of Oxford HeLex Seminar online
「Scaffolding stakeholder involvement and engagement in the governance of technologies for healthcare: Perspectives from Japan」2022年3月16日
<https://www.law.ox.ac.uk/events/scaffolding-stakeholder-involvement-and-engagement-governance-technologies-healthcare>
<https://www.law.ox.ac.uk/helex/helex-seminar-series>

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (_____ 件)

●国内誌 (_____ 件)

.

●国際誌 (_____ 件)

.

(2) 査読なし (_____ 件)

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 _____ 件、国際会議 _____ 件)

.

(2) 口頭発表 (国内会議 _____ 件、国際会議 1 件)

- British Sociology Association Med Soc, 2021 (online modality)

Title: Positioning patients and citizens at the centre of AI in healthcare
Joint paper: Osaka University & University of Oxford with Beverley Yamamoto and
Amelia Katirai presenting.

(3) ポスター発表 (国内会議 _____ 件、国際会議 _____ 件)

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (____件)

.

(2) 受賞 (____件)

.

(3) その他 (____件)

.

6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (____件)

.

(2) 海外出願 (____件)

.